

かんの
神野

ちよんがり節

唄集



神野ちよんがり節集録委員会

能登町立神野公民館

神野ちょんがり節の集録（特色ある活動事業）

はじめに

年々過疎化と高齢化が進む神野地区。でも、ここには誇れるものがある。

「ちょんがり節」である。

「ちょんがり節」は、神野公民館が主体となって行う「敬老会」や「芸能祭」「なつまつり」には無くてはならない踊りである。

特に、高齢の方は、自分たちも踊った方が多く、思わず手拍子をしたりしている。公民館が行うイベントでは必ずと言っていいほど「ちょんがり節」があると思っている方々が多く、唄い手の都合により、「ちょんがり節」が取りやめとなった時には、なぜ今回はないのかとの声を多く聞いた。

踊りの女性は数人いますが、唄い手が一人しかいなく、その後継者もない状況から、今回、「ちょんがり節」の集録を行い、唄集を保存継承しようとしたものである。

最後になりましたが、集録にあたってご尽力を頂きました関係者に深く感謝申し上げます。また、この唄集に興味を抱き、ご覧になった方々には、「ちょんがり節」を後世に伝えるお手伝いを是非ともご協力頂きたいと願っています。

令和3年3月

神野ちょんがり節集録委員会
能登町立神野公民館

ちょんがり節の集録にあたって

この度、ちょんがり節を後世に残していく取り組みとして、郷土で唄い継がれてきた文句を書き留める事になった。

ちょんがり節は江戸時代中期に「ちょんがれ」「ちょぼくれ」といって、念仏^{ひじり}聖くずれの願人坊主が諸国を歌い歩いた時の音曲が能登の各地に「ちょんがり節」として伝わったといわれており、盆踊り唄の主役となったようである。

現在は、奥能登一円に知られていて、それぞれの村が自分の処が発祥と自負し、愛着をもって歌い継がれている。

また、町野郷という地域性の為か、神野、柳田、町野方面は節回しなど、唄い方がよく似ている。

歌詞については、夜明けまで歌っても同じ文句を歌わなかったと云われるくらい、即興で創作したものも数多く、中には一部卑猥な語り文句もあるが、そのまま掲載することにした。

昔は集落の夜祭りでキリコ乱舞終了後に老いも若きも輪になってちょんがり・太閤記・鈴木^{もんど}主水くどき等、夜が明けるまで踊ったと聞いている。

神野小学校が宇出津に統合される以前は、校下の運動会には必ず先生も生徒も一つの輪になって踊るのが恒例であった。

これだけ郷土に根づいてきたちょんがり節が、時代の流れと共に忘れ去られてしまうのは誠に残念でならない。

今回、ここに掲げた以外にも現代にマッチした文句等創作してもよいのではないかそれも又能登地方独自の文化として後世に伝承されていけば幸いである。

私自身も「ちょうんがり節」の唄い手育成に尽力したいと願っております。

畑中 博司

目次

はじめに	1
ちよんがり節集録にあたって	2
目次	3
能都町名所	4～5
ななつのたとえ	6
ちよんがり節 数え唄	7～10
まいまいづくし	11
かんかんづくし	12
能登ちよんがり節（かあかづくし・たよりづくし） （真中づくし・豆づくし）	13～15
ちよんがり 数え唄	16
たちたちづくし	17
けいけいづくし・ちよんがり語り文句	18
棒づくし	19
ちよんがり（ぐんどづる）	20
まん中づくし	21
「ちよんがり節」踊り振付け	22～23
音符（楽譜）	24～25
参考 鈴木主水くどき	26
参考 太閤記	27
あとがき	28



平成28年2月7日
神野公民館ホール 芸能祭

能都町名所

ハアー ヤレコレヤレナー 先の先生まナ
検事か判事か弁護士か ちょんがり語りの役人か
そりゃ知らねども (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
長の^{よい}宵からナ 続いてご苦労 先生ま休んで
声つくれ 合いのこがちにナ
俺や ちょいと やろか (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
能都町名所をナ チョンガリ節で 東の方からナ 読みあげましょか
はるか向いにナ 立山^{なが}眺め
海の幸とるナ 大敷網は
真脇小浦にナ 藤波 宇出津
波並 矢波 にナコリヤ 鶴川の七つ (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
姫の港のナ 遠洋漁業
真脇にや万畳岩、縄文遺跡
小浦にや
夫婦のナ タブの樹 ござる
羽根の浜にはナ 海水浴場
能登の三景 田ノ浦浜に
その身を写すナコリヤ 弁天島や (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
松の緑のナ あの離れ島
^{がんか}眼下に見下ろすナ
国民宿舎、城山公園
^{つりばし}吊橋渡りや
のとのキリシマやら
ショウブの花よ (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
松の緑のナ その中ほどに
町を静かにナ ^{みまも}見守る
像は郷土が生んだる
益谷先生七月七日のナ
宇出津の町の
あばれまつりはナ 八坂の神よ

めおと 夫婦の大藤やナ じょうちんじ 常 椿寺様 (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
 遺跡で名高い崎山台地
 浜田の浜にはナ さかたる 酒樽がえし
 真島に残るはナ とらごぜん 虎御前さま
 これを見下ろすナ バイパスぞいに
 スラリと並んだナ 16面コート
 テニスの町なるナ われら 我等のほこり (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
 寺田の川すじゃナ 流れも清い
 なごみ温泉プールもござる
 獅子舞踊るナ 七見の里は
 花のお江戸でナ その名も高い
 横綱 おうのまつ 阿武松生まれたところ
 久田 ひさだせんちょう 船長のナ 鵜川の町にや (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
 いどりまつりやナ ニワカのまつり
 山田の在所を見下ろす所
 女のぼれぬナ いしほとけやま 石仏山
 大蛇の大杉やナ 八の田あたり
おおみね 大峰神社の 大イチョウの木 (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)
 武連は二子山 栗農園で
 酪農盛んなナ とよがおか アノ豊ヶ丘
 神野にや チョンガリナコリヤ 藤ノ瀬の滝
 古式ゆたかにナ
 アエノコトござる (ハアー ヤッサイ ヤッサイ)

ななつのたとえ

ハア ヨイサテサテサテジャ サテ東西ジャ

チョイト出ましたナご愛嬌までに

成るか成らぬかな ソリヤ知らねども

好きで覚えた ちょんがり節を

一つやりますナ ゴメンとなされ

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

わしの音頭はナ ちゃぼ鳥音頭で

足が短うてナ ^{はがい}羽交がちょんこて

どこで落るやら そりゃ 知らねども

落ちたところはナ 先生様頼り

おおたところでナ ハヤシを頼む

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

京の北野のナ ^{てんじんかわ}天神川で七つお女郎ろはナ ^{あおな}青菜をすすぐ

そこえ大名様 馬乗りがけで この子良い子じゃナ 良い器量の子じゃ

ザマがでかけりゃナ 私しゃ妻にしよに ^{ようしょう}あんまり幼少でな

^{ましやく}間尺に合わぬ 言えばその子のな申する様には ^{よう}これさ大名様

何言わしゃんず^{ざま}様がちょんこいとて あなどらしやんすな

物のたとえでナ 申そかならば ここに七つのナ たとえがござる

山にたとえてナ申そかならば 山の中にもナ 大山小山 小山なれどもナ ^{たいぼく}大木育つ

川にたとえてナ 申そかならば川の中にもナ 大川小川 小川なれどもナ出水がたえぬ

石にたとえてナ 申そかならば石の中にもナ大石小石小石なれどもナ 水にも浮かぬ

橋にたとえてナ 申そかならば橋の中にもナ 大橋小橋 小橋なれどもナ 人通りや

たえぬ

針にたとえてナ 申そかならば 針の中にもナ 大針小針 小針なれどもナ 飲まれも

しよまいが

舟にたとえてナ 申そかならば 舟の中にもナ 大舟小舟 小舟なれどもナ大海馳せる

ざまがちょんこいとて あなどらしやんすな

ざまがちょんこてもナ でかいとこやござる

もっとこの先ナ 読みたいけれど 下手で長いのはナ あくびの種じゃ

やめろ やめろ の声なきうちに こころあたりでナ 段切りまして

これにてご免こうむりまする

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

ちょんがり節

前唄（唄い初め）

へ ハアー ヨイサテサテサテジャ サテも東西 はばかりながら
わしの音頭はナコリヤ ちゃぼ鳥音頭で
足が短こうてナ 羽がいがちょんこて

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

どこで落るやら そりゃ 知らねども
落ちた所はナー 先生さま たより
おおた所でナ コリヤ はやしを頼む

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

前唄（唄い初め）

へ ハアー ヤレヤレヤレナ その段続く
チョイと出ましたナコリヤ ご愛嬌^{あいきょう}までに
なるかならぬかなー そりゃ知らねども

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

好きで覚えたちょんがり節を一
一つやりましょうかい ご免となされ

(ハアー ヤッサイヤッサイ)



能都町町民文化祭 能都町社会福社会館 4階ホール

ちよんがり節

へ ハアヨイサテ サテ サテナサテ東西ナ
こんな世間ナ 乱れた時にゃ
西も東もナ 静まり給え^{しずまりたま}
好きで覚えた ちよんがり節を
一つやりましょかい ごめんとなされ

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

私ゃ 山奥の 奥山育ち
読まず 書かズの 私でござる
合うか 合わぬか 知らないけれど
合うたところではな 囃^{はやし}を頼む
合わぬところはな 先生様頼む

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

一から十まで語ろうかなー
一から十まで たんとある
一つ ひよ鳥やナ 高いとこたより
二つ 舟乗りやナー 合いの風たより
三つ 神輿^{かんぬし}はナ 神主 太鼓たより
四つ 夜這いはナ 手さぐりたより

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

五つ 医者様ナ 聴診器^{ちようしんき}たより
六つ 婿殿^{むこどの}ナ あねまをたより
七つ 仲人はナ 祝儀をたより
八つ 厄年ナ 神主さんのお祓^{はら}いたより
九つ こどもはナ 親達たより
十で とと様ナ じゃ様たより

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

へ ハアヤレヤレヤレジヤ その段続く
ないものづくしを 申すなら
畑にハマグリ 掘ってもない
小便たごけに 引き出しやない
すりこぎ なんぞに 二又ない
つんぼの立ち聞き 見たことない
ざっとの見物 こりゃ又ない

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

貧乏な 父様 ひまがない
尼さん 頭に まげがない
蛙のお腹に ^{かえる}ヘソがない
こんなダラ口ち 聞きともないわ
そこで お次の 先生達たよる

(ハアー ヤッサイヤッサイ)



令和2年2月9日 神野公民館ホール

へ ハアー ヤレコレヤレ ヤレナアヤレ東西ナ

先の先生さんの 後とりまして
音頭とるとは こりゃよいけれど
ビールやお酒を 林のごとく
好いたお方に お酌をさせて
鯛のサシミで こりゃ飲むような
うまいわけには いかないけれど
牛に縄付け ひっぱったように
そろりそろりと 申そかならば

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

一に 早起き 二に 鐘つきよ
三に さらりと 障子をあけて
四には しっかり 学問なさる
五には ごしょの道 大事になさる

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

六にや ろくなこと ないように なさる
七つ ^{ななえ}七重も 着るように なさる
八や 八の字を書くように なさる
九に 苦勞して ^{すえらく}未樂 なさる
十に ^{とう}処に 良い寺もたれ

(ハアー ヤッサイヤッサイ)



平成30年2月4日
神野公民館ホール

先の先生さまのあと取りやろか

先の先生はナ 長の宵^{よい}からナ 只今^{ただいま}までも続いてご苦労

大儀でござった まいまいづくしで申そかな まいまいづくしもたんとある

一つにや 冷めしヤ 茶づけがうまい
二つにや ふやふや まんじゅうがまい
三つにや みかんの 皮むきやまい
四つにや ようかん そりやまたまい (ハアー ヤッサイヤッサイ)
五つにや いら菓子 いったがまい
六つにや むし菓子や 中からまい
七つに ながましヤ あんこがまい (ハアー ヤッサイヤッサイ)
八つに 焼きもち 焼けたがまい
九つ 小麦の ダンゴがまい
十には 豆腐の でんがくやまい (ハアー ヤッサイヤッサイ)
十一 いちごのうんだがまい
十二にや にんにく 臭てもまい
十三 盃 さいたがまい (ハアー ヤッサイヤッサイ)
十四にや しいらの さしみがまい
十五にや ごんぼの たたきがまい
十六 ささぎの てったがまい (ハアー ヤッサイヤッサイ)
十七 紫竹^{しちく}の タケノコまい
十八 ハチメの オザシがまい
十九にや クシ柿 黒てもまい
二十にや ニシンのコブ巻きやまい (ハアー ヤッサイヤッサイ)
もっと この先読みたいけれど
上手で長いは そりやよけれども
下手で長いは アクビの種じゃ
ここらあたりで 段切りまして
これにてご免 こうむりまする (ハアー ヤッサイヤッサイ)

へ ハアー ヤレヤレヤレジャ その段続く

かんかんづくしで申すなら

大寒 小寒 酒の爛^{かん}

子供に 羊かん やりゃ 泣かん

親の言うこと 子は きかん

橋のらんかん 屋根 ふかん

にわとり裸足^{はだし}で 足 突かん

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

相撲とり 裸で風邪 ひかん

便所の柱で 根が きかん

年寄り色ごと 腰 きかん

豆腐にかすがい こりゃ きかん

お寺の本堂に 鐘かんかん

いつまで読んでも きりやつかん

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

まだまだ文句は沢山あれど 上手で

長いは 聞き良いけれど 下手で

長いは お後のじゃまよ どうやら

踊り子さんも 唄い手さんも

疲れたようす ころあたりで

切り上げまして よろしく頼む

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

あん様 あん様 姉様 姉様

ヤッサイ ヤッサイ ヤッサイナ



平成30年10月14日

神野公民館ホール

能登チヨンガリ節（かあかづくし・たよりづくし）

- ♪ ハアヤレヤレヤレナーヤレ東西じゃ
私や能登のナー 山奥育ち 声もまずいがナコラ 文句もまずい
まずい所はな ごようしゃあれば
私や飛んで出て とろでもないが 習い覚えたナコラ チヨンガリ節で
一から十^{じゅう}までナコラ 申そかならば (ハアー ヤッサイヤッサイ)
- ♪ 一つや人のカアカ なんぼようても だめじゃ
二つ 太ったカアカ ポツチャポチャでいいぞ
三つ みよいカアカ だれが見てもみよいぞ (ハアー ヤッサイヤッサイ)
四つ 欲なカアカ 身代築く
五つ 嫌なカアカ どうしてながめらりようか
六つ 無邪気なカアカ なんてカワイイもんじゃろ (ハアー ヤッサイヤッサイ)
七つ なまくらカアカ 貧乏の種じゃ
八つ やんちゃなカアカ 立てひざあぐら
九つ 小柄なカアカ こりやまたかわいぞ
十^とで とにかくな誰が何と言おうと 我がカアカかわいぞ
(ハアー ヤッサイヤッサイ)
- ♪ ハアヤレヤレヤレナーその段続く
- ♪ たよりづくしでナコラ 申そかならば (ハアー ヤッサイヤッサイ)
- 一つ ひよ鳥ナコラ 高いとこたより
二つ 舟乗りナコラ 船頭様たより
(舟乗りさん あいの風たより)
三つ 神輿はナコラ 神主・太鼓たより (ハアー ヤッサイヤッサイ)
四つ 夜廻りさん ちょうちんたより
(夜ばいこきや まっくらやみたより)
五つ 医者様 薬箱たより
六つ むこさんは あねまをたより (ハアー ヤッサイヤッサイ)
七つ 仲人ナコラ 祝儀の場をたより
八つ 山伏ナコラ ほら見たより
(やもめはナコラ ごけ様たより)
九つ 子供ナコラ 母親たより
十^とで とうちゃんナコラ 我がカアカたより (ハアー ヤッサイヤッサイ)

- ♪ ヤレヤレヤレナーヤレ東西じゃ まだまだこの先やりたいけれど
 上手で長けりゃ そりゃ良いけれど
 下手で長いのは あくびの種じゃ (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 ここらあたりでナア段止めまして 次の先生と交代いたす
 次の先生方と交代いたす (ハアー ヤッサイヤッサイ)

能登チョンガリ節 (真中づくし・豆づくし)

- ♪ ハアー ヤレヤレヤレナーヤレ東西じゃ
 私や能登のナー」山奥育ち 声もまずいがナコラ文句もまずい
 まずい所はナコラご容赦あれば (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 私や飛んで出てとろでもないが 習い覚えたナコラチョンガリ節で
- ♪ 真中づくしで申そかならば (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 世界で日本がコリヤ真中で
 日本で東京がコリヤ真中で
 東京じゃ皇居がコリヤ真中で (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 わずか五尺の人間様は
 頭にギリギリコリヤ真中で
 お顔にゃお鼻がコリヤ真中で (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 お腹にゃおへそがコリヤ真中で
 わずか三寸くだったならば
 あるともあるともコリヤあるわいな
- ♪ 豆々づくしでナコリヤ 申そかならば (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 一ツ 他人の豆や 取られん豆じゃ
 二ツ 踏んだ豆や つぶれた豆じゃ
 三ツ 味噌豆や 味の付いた豆じゃ (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 四ツ 選った豆や くずの無い豆じゃ
 五ツ 枝豆や 毛の生えた豆じゃ
 六ツ 剥いた豆や すべすべした豆じゃ (ハアー ヤッサイヤッサイ)
 七ツ 納豆豆や 糸の引く豆じゃ
 八ツ 焼いた豆や 灰の付いた豆じゃ
 九ツ 買った豆や 銭の出した豆じゃ
 十で とうの豆や 莢さやのでっかい豆じゃ (ハアー ヤッサイヤッサイ)

♪ ヤレヤレヤレナーヤレ東西じゃ もっとこの先やりたいけれど
上手で長けりゃ そりゃ良いけれど
下手で長いのは あくびの種じゃ (ハアー ヤッサイヤッサイ)
ここらあたりでナア段止めまして 次の先生と交代いたす
次の先生方と交代いたす (ハアー ヤッサイヤッサイ)

先の先生はナ どこの あんさまかおっさまか
村長か郡長か県知事か ちょんがり語りの役人か
そりゃ知らねども
わしにも ちょっこり ぐだまかせ
歌の文句はナ 数知らねども
合いのこがちにナ ちょいとやりまするヤ ご免となされ
(ハアー ヤッサイヤッサイ)

ワジマに立つのは 市とも言う
馬に付けるは 荷とも言う
おなごの大役 産とも言う
子供のしょんべん シーとも言う
石なをならべて 碁とも言う
家の財産 ろくとも言う
日当かね貸しゃ 質とも言う
チクリと刺いたが 蜂とも言う
でっかい心配 苦とも言う
手紙のやり取りや 状じょうとも言う
赤飯ぼた餅 ごつつおの入れ物 重ともいう。



平成10年11月5日
能登空港起工祝賀式（工事着手記念）
穴水勤労体育センター

ちよんがり 数え唄

へ 昔おぼえたな ちよんがり節で チョイトやりましょか
ご免となされ
赤田村とはナ 大こな村じゃ
村の家数な 三百三十四軒で お寺三軒で庄家が二軒
庄屋二軒のナ 北方村の米屋の娘、姉は二十一で
妹は二十 どちらが姉やらナ あの妹やら
姉は野に咲くツツジの花よ 妹きりりとナコリヤ キリシマの花よ
妹ほしさにナ ごりよ願かけて
一に 岩倉の 観音様ジャ
二に 新潟の 白山様で
三に 讃岐の 金比羅様ジャ
四には 信濃のナ 善光寺様で
五つ 出雲のナ 大社様ジャ
六つに 村々の お天とう様で
七つに 成田のナ 不動様ジャ
八つ 八幡のナ 八幡様で
九つ 高野の 弘法様ジャ
十で 東京のナ 浅草観音様ジャ
伊勢へ七度 熊野へ八度
かけた りよ願かなわぬ時は
宇出津の棧橋から 身を投げすてて
三十八尋のナ 大蛇となりて
好いたあなたにちょいと巻きつくぞ
もっとこの先読みたいけれど 下手で長いのはあくびの種ジャ
やめろやめろの声なきうちに
ここらあたりでナ 段切りまして
これにてご免こうむりまする



平成30年10月14日

神野公民館ホール

たちたちづくし

ヤレヤレヤレナヤレ東西ジャ

先の先生まナ 検事か判事か弁護士か、ちよんがり語りの
役人か村役人か あんまりまいところがすか おれにもちよっこり ごたまかせ
たちたちづくしでやろかいな たちたちづくしも たんとある
正月 門には松が立つ 二月初午 ^{のぼり} 幟が立つ、三月ひな形ナー 人形が立つ、
四月八日で 釈迦が立つ、五月節句で 菖蒲が立つ、
六月朔日 ^{さくじつ} 鬼が立つ、七月七夕 笹が立つ、八月お盆で 線香立つ
九月祭りで キリコ立つ、十月出雲で 神が立つ
霜月坊主がナー ^{しもつき} 門に立つ ^{こたつ} 師走炬燵でナ、足が立つ
師走に立つものそれだけか 飛んでいく様に日が立って
^{みそか} 晦日に掛取り 門に立つ 酒屋に飲屋に出合茶屋
遊んだ報いと ^{むく} いいながら 女房は朝からふくれ面
俺はほんまに 腹が立つ
アーヨイサテサテサテナー ……と続く



能都町役場・能都町社会福祉会館新築落成こけら落とし

昭和47年8月5日 能都町社会福祉会館4階



けいけいづくし



♪ やけじゃ やけじゃ 八百さと やけじゃ
 けいけいづくしで やろかいな
 とっ様 とぼけで かか様 すぼけ
 あんさ チョムケ 姉さは歯向け
 一人娘 カワラケ
 猫は 三毛で 鶏までらんけじゃ
 高い処 峠で 低いとこ崖じゃ
 殿様御三家じゃ 馬は乗りがけ
 お茶屋に腰かけ お茶は飲みかけ
 冷めし茶漬けじゃ
 こんな だら口ちゃ ころらで止めて
 次の先生さまに チョックラ コイ と渡す

前唄 (唄い初め)

ハア ヤレコレ ヤレナー 先の先生まナ
 検事か判事か弁護士か ちょんがり語りの
 役人か そりゃ 知らねども
 長の宵^よいからナ 続いて ご苦労 先生ま 休んで
 声つくれ 合いの ごがちにナ
 俺や ちょいと やろか

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

(ハアー ヤッサイヤッサイ)

サテサテ サテジャ サテ東西ジャ
 ひとつ ひやひやじゃ 部屋^{にかや}の二階にナ
 わしと おじゃまさんが 枕へんならべて
 一時^{ひととき} 合^あうたら 村の若い衆ナ 倫気心かナ
 面白がてらか 部屋の東の 窓からナ
 食うも食われぬ でっかいガメナシ すってんころりや
 てんころりんとや 投げこみました
 おれにあたればナ 何を事ないのに
 運の悪い時きやナ 拍子まも悪て
 おれに 当たらずナ おじゃまの チャンコや

カワラケチャンコの オサネの頭に こつつりこんと 当たった
おじゃま わし見る わしゃ おじゃま見る
見るにみかねて ナコリヤ ざっとの棒の鏡
言うにも 言われぬ 毛のない ぼんさまさんの頭
布団三角 卵に四角ジャ 女の馬乗りや きん玉
つぶれた ためしが無い 真言寺にや べん鍋やない
べん鍋なけりや 盛ってもない 盛ってもなければ
食いてもない
こんな文句はナ 唄には ならず 先の先生まに
わしゃ ちよいとわたす

前唄 (唄いはじめ)

ハア ヤレヤレヤレナ ヤレ東西ジャ
ちよいと出ましたナ 三角野郎が 四角四面のナ
やぐらの上で 音頭とるとは おおそれながら
国のなまりや言葉のちがい ^{ひら}平にその儀は
お許しなされ 許しなされば 文句にかかる
〇〇〇〇づくしで 申そならと続く



棒づくし



^{しんぼう} ^{ぼう}
心棒の棒

後先 肩ねる モッコの棒
真中 肩ねる 天びん棒
棒で小さいのが 太鼓の棒
お寺の坊さん 鐘つき棒
腰曲げ 年寄 頼り手棒
おまわり こん棒で 泥棒や独房
野良犬 追う コリヤ 竹の棒
こんな あだ口や 文句にならぬ
次の先生まと 交代いたす

ちよんがり（ぐんどづる）

先の先生まナ どこなあんさまか ながの^{よい}宵からジャ
ただ今までも続いてご苦^{たいぎ}勞大儀でござった わしの音頭はナ
ちゃぼどり音頭で 唄の文句はナ 数知らねども あいのこがちにナ
ちよいとやりまするヤ ご免となされ （ハアー ヤッサイヤッサイ）
〇〇〇〇ジャ 出ぬけたとこで ちんちやい^こ小屋家にナ でっかいカアカー人
ちんちやい小鍋にナ コリヤ でっかいダンゴ入れて でっかい
しゃもじにナ くるりくるりとナ コリヤ 回そうとすれば （ヤッサイヤッサイ）
ダンゴはこぼれるナ やせ子はすする そしているうちに
雨もり出きておやじゃ あわててナ 雨もり直しによじ登り
すべってころんで ハシゴヤ 三段目だんべの^{すじ}うら筋ぷつつり
こいと切れた おかか 泣き泣きナ 医者呼び走る医者は
目くらでナ なかなかははず うちへ帰りてナ うらの山えとナコリヤ
藤の木さがす 藤は見あたらず ぐんどづるたぐって うちに
帰りてナ おやじのだんべの うら筋しっかりこいと結んだ
おやじ喜んでナ しこ一つふんだらぷつつりこいと切れた
おやじ泣き泣きナ ぐんどづるとはナ なんと弱いもんじゃろ
こんなあだ口ちゃナ 文句にならぬ
ヤレヤレヤレジャ 次の先生まに 又ちよいと渡す



神野公民館ホール
平成31年2月10日

ヤレヤレヤレナーヤレ東西ジャ
先の先生まナ どこな あんさまかおっさまか
小便ちびりかぼったりか 水ばなたらしか 女やたらしか
三銭五りんの月給とりか わしゃ知らねども
あんなまいことなんか言われもせにゃ語りもせぬが
ちよいとやりますナ 恋物語
京の北野のナ 三条や町の糸屋よよものナ
良いとこの娘の うちはにぎやかジャ 暮しは繁盛
同じところはナ なるせのごとく かしら番頭はナ 庄吉と言って
庄吉 気がきくな さも そろばんも何をさせてもな ぬけめはないが
ぬけめはないのにナ 迷うたが うきち 迷たうきちもナ
ぬけめはないが にちや にやともナ よも重なりて

後略



まん中づくし



真中づくしで申そかな まん中づくしも たんとある
日本で京都の都が まん中ジャ 京都で六角 まん中ジャ
六角本ぞう まん中ジャ わずか五尺の人間様は頭にギリギリ
コリヤまん中ジャ お顔におはなが まん中ジャ 指には中指 まん中ジャ
うではひじがね まん中で 足にはひざこべ まん中ジャ
はらにはおへそが まん中ジャ おへそさ三寸下がります
そこには三がの寺ござる 一軒目の寺小屋毛がん寺
二軒目の寺子屋さねがん寺 三軒目の寺小屋穴がん寺
そこじゃ 一人のヤリぼうさんが 出たりひっこんだり
あんまり おせっきょうがやりやりがてか白いなみだをナ
ポロポロながす

後略

ヤレコレヤレナー ヤレ東西じゃ
お前さんの性は 驚かそれともつばめか
まめまわし ころころころと 転がすか
お前さんばっかりのちょんがりか
俺にもちょっくら かしてくれ

サーヨイサテサテサテじゃ サテも東西 はばかりながら
チョイと出ましたナ ご愛嬌までに
なるかならぬかそりゃ知らねども
好きで覚えたチョンガリ節を
ひとつやりますナ ご免となされ

「ちょんがり節」踊り振付け



1. ハアアの時に両手を胸の所から両脇下におろす



2. 左足を軸に左の方に体を傾け、手を交差（右上上・左手下）する動作と同時に右足をける（2回）



3. 足を揃えると同時に両手を両脇に広げておろす



4. 右足を軸に右の方に体を傾け、手を交差（左上上・右手下）（2回）



5. 足を揃えると同時に両手を両脇に広げて下げる



6. 左足を軸にして右足を左の前に出して、同時に左手を上にして右手でたもとを上にかえす様な動作をする



7. 足を元にもどし手をおろす



8. 手拍子しながらチョン・チョン・チョンと3歩歩き足を揃えたら、両手をおろす



宇出津商店街まつり 町ながし
平成4年8月2日

【参考】



鈴木主水くどき



花のお江戸のその傍^{かたわ}らに、さても珍しい 心中話

ところ四谷の新宿町の、紺のノレンに桔梗^{ききょう}の紋は、
音に聞こえた橋本屋とて、数多い女郎衆^{じょうろうしゅう}のある
その中に、お職女郎の白糸こそは、年は十九で
当世の育ち、愛嬌よければ皆な人さんが
われも われもと指名^{なざし}して上る、わけてお客は誰方と聞けば春は
花咲く青山辺の、鈴木主水という侍は、女房もちにて
二人の子供、五つ三つは、いたずらざかり、
二人子供のあるその中で、今日も明日もと 女郎買いばかり、
見るに見かねて女房のおやす、ある日わが夫、
主水にむかい、これわが夫、主水様よ、私しゃ女房で
妬^やく事じゃないが、二人子供は 伊達^{だて}にはもため、十九二十^{はたち}
の身じゃあるまいし、人に意見もなされる年で、
止めておくれよ女郎買いばかり、金の成る木は、
もってはいまい、
どうせ切れるの六段目には、連れて逃げるか心中するか、
二つ一つの思案と見える、
しかし二人の子供がふびん、二人子供と私の身をば、
末はどうする 主水様よ、言えば主水はこやけになりて、
己が心で止ま^やないものを 女房ぐらいの意見じゃ止まぬ、
わしの女郎買いそちゃ 嫌いならば、二人子供をみな引きつれて、
元の里えと出て行かしゃんせ、愛想づかしの
主水様よ、いえば主水はこやけになりて、又も出て行く
女郎買姿、あとで

後略

太閤記

一つ一間に入りける
残るはつぼみの花一つ
サアヤー 一つ一間
水上げかねし、風情にて
思案投首しおるるばかり
いよいよ涙 押しとどめ
これ母様にも
これが今生のいとまで（ご）い
この身の願いが かのうたなら
思い置くこと、更にな
十八年間のその間
御恩は海山か え がたしはかり難い
討死うちじにするは武士ものふの
ならいと思召おぼしめわすられて
先きだつ不孝は、許したべ
又、二つには初菊どの
いまだ祝言の盃を
せぬが互の身のしあわせ
わたしの事は思い切り
他家へ縁よそづきして下たもれされ
討死したと聞くなれば
さぞや歎なげかんふびんやと
孝と恋との思いの海
へだつ 一間に 初菊が
立聞く涙 まろびいで
わっとばかりに 泣き出せば
ハット驚き口に 手をあて
これ声が高い 初菊どの
さては様子を
残らず聞いておりました
夫の討死遊ばすを

妻が知らいで 何としよう
二世も三世も めをとじゃと
思っているのに 情けない
盃さかずき せぬが 仕合せとは
あんまりきこえぬ 光義様
祝言しゅうげんさえも 済まぬうち
討死とは 曲げいがない
わしゃ 何んぼでも ころしゃせぬ
思いとどまって給われと
すがりなげけば
これ こなたも武士の娘じゃないか
十次郎討死は かねての覚悟
ばば様にも 泣き顔見せ
もしもさとられたら
未来永却 縁切るぞや
と、こういううち 時刻が過ぎる
その鎧よろいびつ これえこれえ
アイサー 早う
時延びるは不覚のもと
聞き分けないと叱られて
いとしい夫の討死うちじにの
門出のものの具 つけるのが
どう急がるるものぞいのと
泣く泣く取り出す 緋緘ひおどしの
鎧よろいの袖そでに降りかかる
雨か涙の母親は

後略

あとがき

無くしてはならない「神野ちょんがり節」なんとか後世に残す方法はないかと、平成31年頃より思考錯誤していた。

今回、令和2年度において、能登町教育委員会の「特色ある活動事業」に採択されたことで、語り継がれてきた「ちょんがり節」をまがりなりにも残すことができ、ほっとしている。

唄集の集録にあたっては、畑中博司氏に多大なご協力を頂きました。深く感謝しています。また、踊りの一コマ一コマをわかりやすくするため、踊りの動作を写真で撮影するにあたっては、水上よしえ氏を始め、多数の神野地区の女性たちのご協力を得た。

「神野ちょんがり節」の唄集作成の後は、令和3年度に映像を残すこととしている。

これも「特色ある活動事業」に採択される予定であり、願わくは、この事業により、後継者が沢山現れることを願っています。

令和3年3月吉日

神野公民館長 井口 潔

【協力者】

畑中博司 水上よしえ 井元洋子 井畠淳子 的場町子

【編集委員】

畑中博司 井口 潔 浅倉孝子 寺口 学

発行年月日	令和3年(2021)3月15日
編集・発行	能登町立神野公民館
郵便番号	927-0453
住所	石川県鳳珠郡能登町字鶴町11-13-1
電話/FAX	(0768)62-0898